

# 福島第一原子力発電所視察を終えて

## After the Fukushima Daiichi Nuclear Power Station tour

安井 清孝

Kiyotaka YASUI

福島県立医科大学 放射線健康管理学講座

Department of Radiation Health Management, Fukushima Medical University

第8回日本放射線看護学会学術集会の前日、学会主催の福島第一原子力発電所視察ツアーが開催されました。このツアーには全国から集まった18名の学会員の皆様に参加されました。福島第一原子力発電所までは、福島駅を起点とし、飯舘村と南相馬市を経由すると約100kmの道のりがあります。見学会は、原子力発電所の復旧状態を視察することだけではなく、この道のりについて造詣を深めることも目的としています。

バスが福島駅を離れ、川俣町から飯舘村を通過し、南相馬市に入ってから国道6号線を南下します。川俣町、福島市は風雪雨の影響で環境放射線量が上がり、多くの母子が一時避難を行いました。飯舘村は全村避難となり、川俣町および福島市で多くの住民が避難生活を送りました。飯舘村は避難指示が解除され、現在進行形で復興活動が続けられています。飯舘村の道の駅では、復興が進む飯舘村の姿を知ることができたと思います。

南相馬市は原発事故後に住民の数が減少しましたが、戻った住民の皆さんは前向きに生活しています。浪江町・双葉町・大熊町の大部分は帰還困難地域に指定されていますが、少しずつ着実に復旧が進められています。東京電力廃炉資料館のある富岡町は、徐々に居住できる範囲が拡大しつつあります。原発事故から8年が経過し、それぞれの地域で濃淡はありますが、徐々に復旧・復興が進んでいる姿を垣間見ることができるのが、この道程そのものにあると考えています。

以下、参加された皆さんの感想の一部を紹介させていただきます。

「バスの中での座学から福島の実況（特に浪江町、双葉町、大熊町）を知り、メディアでは伝わらない日常のことに悲しみを抱きました。しかし、他県からの支援、現場の努力があり、少しずつ前には進んでいる現実を受けとめ、将来おこるかもしれない災害への対策が必要だと感じました」

「今回のツアーのように「見ようとしなければ知らない現実や事実」がたくさんあります。ネットでいろんな情報を得ることは簡単ですが、やはり正しい情報を得ることも大切で、とてもよい機会になりました」

「8年が経過しずいぶん復興も見られていますが、原発周辺の人達の、家に戻れないという現状を見て、まだまだ時間が必要なんだということが理解できました。また、多くの方が働いているのを実際に見られて良かったです。確実に廃炉作業は進んでいるんだということがわかりました」

最後になりましたが、福島第一原子力発電所の廃炉作業を進めている多くの皆様の、安全と健康をお祈りさせていただきますと存じます。